



美杉中学校だより

みんなが幸せになれる学校
すすんで学び行動しよう
ぎぶあっぴしない

第 12 号
令和 4年 9月 26日発行
美杉中学校長
坂本 直哉

9/20 ものづくり体験

9月20日(火)。2年生で「技能体験学習」を行いました。この事業は、[一社]三重県技能士会の支援によるもので、今回は座布団(ミニクッション)の制作を指導していただきました。

日常、当たり前に使っているものを自分の手で制作する感覚は、生徒にとって新鮮であったようです。綿を詰める際のコツを教わったあと、針を使い、袋状に縫っていく作業に四苦八苦している様子はほほえましくも感じました。全員が無事に自分だけの座布団を仕上げました。



全国学力学習状況調査の結果について

4月19日(火)に実施された『全国学力学習状況調査』の結果が過日通知されました。今回は、全国の中学3年生と小学6年生を対象に、「国語」・「数学」・「理科」の3教科で実施されました。

三重県は3教科ともに平均正答率は全国とほぼ同数値となっています。

本校については、国語・数学・理科ともに三重県平均を上回る結果となっています。さらに、その内容を精査していくと、各教科における「強み」となる部分、また「弱み」となる部分がみえてきます。この結果から読み取れる課題を教職員で共有し、今後の学習活動の改善に向けて取り組んでまいります。また、同時に『生徒質問紙』として、生徒それぞれの生活や考え方などを把握する調査も実施されています。その中で、スマホやゲームなどに費やす時間が多いこと、文字に親しむ習慣(読書)が少ないことが気になる点としてあげられます。家庭における時間の過ごし方について一考する機会にいただければ幸いです。結果の詳細・考察は以下に掲載いたします。



【国語】

○**知識・技能** (1) 言葉の特徴や使い方, (2) 情報の扱い方, (3) 我が国の言語文化と、いずれも全国・県平均値を上回りました。特に、(2) 情報の扱い方においては大きく上回っています。

○**思考・判断・表現力** A話す・聞く, B書く, C読むでは、A話す・聞く, B書く において、いずれも全国・県平均値を大きく上回りました。

この結果から、いずれの観点においても到達すべき学力が身につけてきており、特に自分の考えがわかりやすく伝わるよう、工夫して表現する、根拠を明確にするなど、いかに表現すれば適切かがつかめてきていると思われれます。タブレットを活用するなど、グループ学習を通して、発表したり、聞いたりする活動から、表現する学力の伸長がみられます。さらに、自分の考えや学んだことから展開し、言葉だけでなく表現する力の伸長を目指す活動を重視していくことが求められます。

しかし、唯一、「読む」の学力については、他の分野・領域とくらべて、わずかに全国・県平均値を下回る結果となっています。この結果から、読書活動に重点を置いた取組の必然性が明確になっています。子どもたちを取り巻く環境は、見て聞いて自然に情報を得ることが容易になっています。しかし、自分で必要な書物から読み取り、その中から自分に必要な情報や知識などを獲得する営みを疎かにしてはなりません。日常の様子からも、子どもたちは長文を読むことを苦手に行っているところがあります。読書を通して、本と親しみ、文を読み解く、文から学ぶなどの姿勢の育成に取り組まねばなりません。



【数学】



○**領域** A数と式, B図形, C関数, Dデータ活用では, 図形・データ活用で全国・県平均値を上回り, 特に図形においては大きく上回りました。しかし, 数と式・関数においては全国・県平均値をわずかに下回る結果となっています。

○**観点** 知識・技能, 思考・判断・表現と, いずれもほぼ全国・県平均値と同等となっています。

例年, 「関数」に関する結果は芳しくない傾向でしたが, 本年度は大きな差にはなっていません。反例(命題に当てはまらない例)の理解, 三角形の合同条件における理解では, 全国・県平均値を大きく上回っています。一方で, 問題場面における対象を的確にとらえる, 表やグラフから必要な情報を読み解く面では, 全国・県平均値を大きく下回っています。

タブレット活用の積極的機会と捉え, 図形やデータ活用の学力伸長を目指した取組を進めねばなりません。与えられた課題を, 自分の中でイメージ化し, 読み解いていく。そうした学習チャートに粘り強く取り組むことが求められます。一方で, 知識・理解については, 全国・県平均を上回っており, 必要とされる基礎的な理解は身につけていると考えます。グループ学習を通じた学び合いや自主的な学習の中で, 疑問の解決手法などを学んでいく姿勢の育成を進めねばなりません。また, 国語と同様に課題の文章を確実に読み解くトレーニングを怠らず, 根気よく課題を解決する姿勢の育成にも取り組まねばなりません。

【理科】

○**領域** 「エネルギー」, 「粒子」, 「生命」, 「地球」と, いずれの領域で全国・県平均値を上回っています。

○**観点** 知識・技能, 思考・判断・表現と, いずれも全国・県平均値を上回っています。

領域の具体的内容として, 静電気・天気図・化学式(化学反応)・大地の変動・実験の操作と条件制御などの分野で, 全国・県平均値を大きく上回っています。一方で, 力の働き・岩石の知識・実験結果からの改善・生物分類の観点基準などの分野では全国・県平均値を下回っています。

実験を通じた学習, またタブレット活用した実際の映像や画像を通じた学習から, 思考・判断する学力を身につける活動に取り組まねばなりません。グループ学習を通して, 自分の得た知識や技能が間違っていないかの検証を確認や修正を重ね, 確かな学力を伸ばさせていかなければなりません。

また, そうした学力が, 日常の現象や仕組みと結び付けていく姿勢を日常的に育てていく意識が必要であると考えます。



【生徒質問紙】

《肯定的な指標》

◆学校は楽しい ◆基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん等)が身についている ◆自分にはよいところがある。先生も認めている ◆最後までやり遂げる ◆将来の夢を持っている ◆困っている人を助ける ◆いじめはどんな理由でもいけない ◆人の役に立ちたい ◆自分と違う意見を考えるのは楽しい ◆友達との協力は楽しい ◆ICT機器は勉強に役に立つ

《改善が求められる指標》

◆ゲーム等の時間4時間以上 ◆SNS・動画視聴等時間3時間以上 ◆家庭でスマホやPCにおけるルールは決めていない ◆計画的に家庭学習に取り組む ◆自分で学習する時間1~2時間 ◆読書時間1時間以下9割, 読書が好き5割以下 ◆地域の行事に参加 ◆地球や社会をよくするために何をすべきか考える。



上記の結果より, 自ら見つけ, 自ら求めて学ぶ習慣(時間確保も含む)には依然として改善の余地があります。学習(読書も含む)に対し, 自主的, 能動的に取り組む姿勢の育成が重要です。学校(授業), 宿題に取り組むことが着地点ではなく, 学んだことを自分の生活の中に結びつけ, 理解し, 解決する能力の育成を私たち教職員も再確認しなければなりません。